

部分床義歯補綴学特論・実習

《キーワード》 顎口腔機能、咬合・咀嚼、部分無歯顎補綴治療、部分床義歯

《担当者名》 豊下 祥史

【概要】

病的因子と老化因子が関与して部分的に歯を喪失した部分無歯顎患者に対して、顎口腔系機能の回復と顔の外観の整形、さらには、QOLの維持・向上を目的として実施される部分無歯顎補綴治療に関して、診察、検査、診断の方法とその理論的根拠、治療計画の立案と治療方法、術後の管理と治療効果の評価法を習得する。なお、部分無歯顎患者では、「口腔関連QOL (Oral Health Impact Profile)」、身体社会的状態、精神医学的状态に加えて、上下顎の対向関係、残存歯の数とその位置が部分床義歯補綴治療の成否に大きく関与するため、(公社)日本補綴歯科学会が策定中の「症型分類」を基に、総合的な治療難易度を判定する基準を理解する必要がある。さらに、歯・筋・顎関節・末梢及び中枢神経からなる機能的咬合系に関する理解が必要である。特に、“Occlusion is a basic principle in dentistry”といわれるように、補綴歯科治療には咬合に関する知識が不可欠であるため、下顎位・下顎運動に関する知識とその評価法を習得する必要がある。

【学修目標】

1. 「口腔関連QOL (Oral Health Impact Profile) について説明できる。
2. 「症型分類」について説明できる。
3. 咬合三角について説明できる。
4. 支台歯選択と歯周疾患との関係を説明できる。
5. 歯根膜支持と粘膜支持について説明できる。
6. 部分床義歯の咬合について説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	咬合・咀嚼機能と全身の機能との相互依存的関係		豊下 祥史
2	歯及びその周囲組織の疾患・欠損、咬合・顎関節・筋の異常、補綴装置の破損・不具合に関する診察、検査、治療計画のガイドライン		豊下 祥史
3	部分無歯顎患者の症型分類		豊下 祥史
4	咬合三角		豊下 祥史
5	部分無歯顎補綴治療における各種印象採得法		豊下 祥史
6	部分床義歯の設計		豊下 祥史

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部(研究科)、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

出席状況、提出物

【教科書】

授業中に指示する。

【参考書】

授業中に指示する。

【学修の準備】

日本補綴歯科学会、日本老年歯科医学会の診療ガイドラインを検索し、該当するガイドラインに目を通しておくこと。(30分)